

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための  
自己点検・評価報告書

2020年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

#### 〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

**第二十六条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

**第二十七条** 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

**第二十九条** 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

## 目 次

I はじめに	1
II 点検・評価について	2
III 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会自己点検及び評価	3
・5-1-1 スクラムによる園・学校・地域の教育力の向上	3
・5-1-2 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進	5
・5-2-1 御前崎を愛し知・徳・体の調和のとれた生き抜くための 資質・能力の育成	6
・5-2-3 安全で充実した教育環境の整備	10
IV 2019 年度教育委員会の活動	12
V 総合評価	13

## I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づき、毎年度発行している「スクラム御前崎」の中で、教育の基本目標と主要施策を明確に示すとともに、施策の実現に努めてまいりました。

2007年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地方教育行政法」という。）が改正され、この改正の大きな柱の一つである「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、同法第26条により、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすべく、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことが義務付けられたところであります。

このことを受けて御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、市民への公表を行ってまいりました。

本報告書は、2019年度御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の活動及び「スクラム御前崎」で示した重点取組の実現のため点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から常葉大学教育学部教授の堀井啓幸氏にも外部評価をしていただき、ここに報告書として取りまとめたものであります。

市民の感覚、視点を持って点検・評価を行うことは、今日の課題や今後の取組方針が明確になる点において、大変意義のあるものと思います。

今後も「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」を基本目標として、園、学校、地域、行政がスクラムを組み、それぞれの施策を推進してまいる所存です。

2020年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会  
教 育 長 河 原 崎 全

## II 点検・評価について

### 1. 趣 旨

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会は、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

### 2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、2019年度「スクラム御前崎」に沿って、今年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎P1の「重点取組」として掲げた14の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

### 3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、2019年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元幼稚園長 増田 喜巳子 氏、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 紅林 幸枝 氏、前中学校長 松林 義樹 氏、の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

### 4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として0～100%で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の5段階で表しました。「妥当性」とは、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

### Ⅲ 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検及び評価

今回教育委員会の自己点検・評価について報告書をまとめるにあたり、教育委員会が行っている事業について自己点検・評価シートにまとめました。

◎点検・評価について	◎今後の方向について
○妥当性 5・・・非常に高い	①継続
〃 4・・・高い	②完了
〃 3・・・どちらともいえない	③拡大
〃 2・・・低い	④縮小
〃 1・・・非常に低い	⑤転換
○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	⑥中止

#### 5-1-1 スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力の向上

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
スクラムスクール運営協議会(学校教育課)	5 ・ 1 ・ 1	100%	事業の妥当性	5	<p>御前崎中学校区24名に委員を依頼し、年間4回の協議会を開催した。今年度は「ゲーム障害・ネット依存」から子どもを守る取組について協議し、各園や各校で工夫された取り組みが行われた。社会教育課と共催で講演会を実施することができた。</p> <p>①継続</p> <p>「早寝早起き朝ごはん」「ゲーム障害・ネット依存」について、少しずつではあるが、改善が図られてきた。委員の数も多く立場も様々な方たちなので結論を出すことが難しいが、今後も今の形で継続しさらに成果を上げていきたい。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	3	
スクラムカレンダーの作成(学校教育課)	5 ・ 1 ・ 1	100%	事業の妥当性	5	<p>3か月ごとに各小学校区のボランティアが作成し、全戸配布を行っている。毎年工夫されたカレンダーが作成されており、地域と園、学校を結ぶアイテムになっている。しかし、作成者の固定化、後継者がいないこともあり負担が大きくなってきている。</p> <p>①継続</p> <p>次年度以降作成者の声を聴きながら、2021年度については、事業の見直しを図っていく必要がある。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	
総合教育会議・移動教育委員会の実施(教育総務課)	5 ・ 1 ・ 1	80%	事業の妥当性	4	<p>総合教育会議を1回開催した。「令和元年度 全国学力学習状況調査について」課題等を共有しながら、市長部局と教育委員会で意見交換をすることができた。</p> <p>移動教育委員会を1回開催した。「教員の負担軽減するには」をテーマに教育委員と教務主任で話し合い、教育現場の現状、課題を把握することができた。</p> <p>①継続</p> <p>議論で明確になった課題を施策に活かすよう、市長部局や小中学校・園との具体的対策を実施する。</p>
			効果性	3	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
防災教育の推進 (学校教育課)	5 ・ 1 ・ 1	50%	事業の 妥当性	5	<p>昨年度園から中学校まで統一した防災マニュアルを作成し、市内で共通して取り組んでいる。防災教育については、各小中学校へ、地区防災訓練については、各地区に任せた形になっている。</p> <p>③拡大</p> <p>スクラムスクール運営協議会において防災について取り上げ、地区で活躍できる中学生(小学生)の育成を図る仕組みを整えていきたい。</p>
			効果性	3	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	
キャリア教育の充実 (学校教育課)	5 ・ 1 ・ 1	80%	事業の 妥当性	5	<p>2018年度にCSディレクターによって両中学校のキャリア教育の体制が整った。職業講座の実施により、地元の様々な職業人に触れ、生徒の夢や希望を広げている。小学校にも様々な方たちがゲストティーチャーとして招かれ、その方たちの思いや願いに触れ、望ましい職業観の育成につながっている。</p> <p>③拡大</p> <p>職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験日数や講座人数など増やし、積極的に地域の方たちとかかわりを深めたい。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	

5-1-2 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向								
情報モラル学習の推進 (学校教育課)	5 1 2	80%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	5	ICT支援員による支援もあり、各校で情報モラルに関する授業が行われている。また、ICT支援員による児童・保護者に対する講演も行われた。さらに、ネットパトロールを依頼している会社による講演は全校で行われている。前年度末に行った、全校児童・生徒対象にしたネットアンケートの結果を受けて、教職員にも情報モラル学習の意識が高まっている。	①継続 スクラムスクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を実行していく。ICT支援員の勤務日数の増加が課題である。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	5												
家庭教育の推進 (学校教育課)	5 1 2	50%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	3	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	「早寝早起き朝ごはん」の推進をスクラムスクール運営協議会で進めている。朝ごはんの摂取率は年々上昇してきているが、この協議会の推進力を事業として十分に展開出来なかった。今後も引き続いて運営協議会の中で、この取り組みを推進するとともに多様な事業展開を図り、各家庭の教育力向上につなげていきたいと考えている。	⑤転換 スクラムスクール運営協議会の取組に含め、成果を検証していく。
事業の妥当性	3												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
スクラムグッドマナー運動の推進 (学校教育課・社会教育課)	5 1 2	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	毎月10日に行われるスクラムグッドマナー運動は、各園・学校で工夫された挨拶運動が行われた。中学生が啓発ポスターの掲示を地元事業所へ依頼したり、大産業祭でクリアファイルを配布したりして広報をした。中部電力社員の協力を得て、より活発になってきている。気持ちの良い挨拶が交わせる児童生徒を目指し、児童会や生徒会でも働きかけるように各校へ呼びかけていく。 社会教育課では、今年度も引き続きスクラムグッドマナー運動の啓発のため、Tシャツ販売を基に可視化した運動への賛同を意思表示できるよう実施している。今年度の販売数は120枚とやや少ない数となっているが、一般市民や市内小学校に通う児童にも購入していただいている。	①継続 子どもたちがより挨拶へ意欲的に取り組めるよう学校に働きかけていく。 本運動推進への一つの契機として、賛同者スクラム啓発のためTシャツ販売を続けていきたい。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												



5-2-1 御前崎を愛し知・徳・体の調和のとれた生き抜くための資質・能力の育成

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向									
スクラム研究会 (学校教育課)	5 、 2 、 1	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	本年度は、文科省指定の研究発表会を行う第一小学校と、池新田高等学校で研究会を行った。第一小学校の発表会では、全クラス算数科の授業公開をして研修の成果を発表した。全小学校で算数科を窓口研修を行っているため、研修を深めるためにも効果的であった。また、池新田高校での研究会では、中・高の職員が夏に事前研修を行い、授業案の検討を行なった。今まで以上に中高のつながりができ、有益であった。	①継続	来年度は小学校で、再来年度は中学校で新学習指導要領の全面実施となる。そのため、小中学校の職員が一同に会して、新学習指導要領の目指す教育観を共有する場を設ける。具体的には大学教授による師範授業及び講話を予定している。
事業の 妥当性	5													
効果性	4													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													
スクラムゼミナール (学校教育課)	5 、 2 、 1	0%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>-</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	-	効率性 (コスト)	-	効率性 (人員)	-	講師の都合で実施できなかった。	①継続	次年度は6月23日に実施予定。
事業の 妥当性	5													
効果性	-													
効率性 (コスト)	-													
効率性 (人員)	-													
スクラム全体講座・スクラム分散講座 (学校教育課)	5 、 2 、 1	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	市内の園・小・中の職員が同じ講演を聞くことで教育観・子ども観の共有を図ることを目的に8月1日に明治大学の諸富祥彦教授を講師に迎え、「教師の元気を取り戻し、人間関係力を高める」と題しスクラム全体講座を実施した。体を動かし、周りの教員と関わり合いながら聞く講演は参加した職員に大変好評で「明日への活力源となった」等の感想が多く寄せられた。	①継続	教職員が興味深く聞くことができ、市が目指す教育観を共有できるような講師や内容を検討し継続する。教員の授業改善に対する意識は向上しつつあるが、新学習指導要領に対応した授業実践をさらに進める必要があるため、来年度はスクラム研と合わせた開催を検討したい。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
教職員対象各 研修会 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	90%	事業の 妥当性	5	<p>教職員のキャリアステージや分掌に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。教頭研では、大学における教育改革や業務能率向上研修を行い、事後アンケートでは100%近い満足度であった。それぞれの立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p> <p>①継続</p> <p>教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させていく。各種研修会実施における目標を明確にし、目標を達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有していく。</p>
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	4	
外国語指導助 手(ALT)及 び英語活動指 導員の配置 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	85%	事業の 妥当性	5	<p>ALT2人と英語活動指導員、英語専科をそれぞれ1人ずつ小学校に派遣し、2020年度完全実施となる外国語活動への対応を図った。さらに担任の指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>③拡大</p> <p>英語専科を1人追加する。 担任の英語力や指導力を向上させる必要がある。</p>
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
普通教室での ICT教育の促 進 (教育総務課)	5 ・ 2 ・ 1	80%	事業の 妥当性	5	<p>御前崎中学校に導入された児童・生徒用のタブレット端末とデジタル教科書を組み合わせたICT機器を活用した授業を促進し、子どもたちの情報活用能力を育成することができた。</p> <p>①継続</p> <p>現場でのICT活用を推進し、利用状況に応じたパソコンの整備やICT機器の導入を図る。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向	
ICT支援員の配置 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	70%	事業の 妥当性	5	ICT支援員の全校配置となつてから2年目となる。各校職員が担当するICT推進委員の重点目標として、昨年度は「ICT機器活用に関する環境整備」、今年度はそれに加え「プログラミング教育実施の準備」を掲げて取り組んだが、全面的なバックアップを支援員が行い、2つの目標が達成できている。	①継続 授業支援や校務支援が主な活動となっているが、今後、職員の働き方改革が推進されるようなICT支援員の活用を行っていききたい。
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	3			
		効率性 (人員)	4			
【再掲】 情報モラル学習の推進 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	80%	事業の 妥当性	5	ICT支援員による支援もあり、各校で情報モラルに関する授業が行われている。また、ICT支援員による児童・保護者に対する講演も行われた。さらに、ネットパトロールを依頼している会社による講演は全校で行われている。前年度末に行った、全校児童・生徒対象にしたネットアンケートの結果を受けて、教職員にも情報モラル学習の意識が高まっている。	①継続 スクラムスクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子どもを守る活動を推進する取組を実行していく。ICT支援員の勤務日数の増加が課題である。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	3			
		効率性 (人員)	5			
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	80%	事業の 妥当性	5	中学校3年生は2月に各発電のメリット・デメリットを理科の時間に、2030年の電源構成を考え、今後のエネルギーについて多面的多角的に考察する授業を社会科で実施する。	①継続 電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断する力を身につけるためにも継続をしていきたい。
		効果性	5			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	5 ・ 2 ・ 1	80%	事業の 妥当性	4	学校図書館司書を1人増やしたため、御前崎中学校への勤務日が週1日から週2日へ(40日から80日)増加した。図書館開館の日数も増え、来館生徒数も増加した。	③拡大 学校図書館連絡会では時間を十分取り、各校での実践例を参考に子どもたちの読書量を増やすようにしたい。
		効果性	4			
		効率性 (コスト)	4			
		効率性 (人員)	4			

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向		
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	5 、 2 、 1	90%	事業の 妥当性	5	<p>年に一度市立図書館が主体となって各校と連携の取り方を話し合う場を設けている。</p> <p>また、年に2回の学校図書館連絡会を通じ、取り組みや課題などについて学校司書教諭や学校図書館司書との共通認識を持つことができた。しかし、担任や学校によって利用の温度差があるのが課題である。</p> <p>またテーマ貸出や団体貸出により、各学校の授業への相互連携を行うことができた。</p>	③拡大	学校図書館連絡会等を活用し、引き続き市立図書館と学校図書館相互の連携を図る。
			効果性	4			先生方に呼び掛けて授業での調べ学習の場として市立図書館を活用するなど、本と楽しむ場を設定しながら読書活動を推進していく。
			効率性 (コスト)	5			
			効率性 (人員)	5			
学習支援員等の配置 (学校教育課)	5 、 2 、 1	100%	事業の 妥当性	5	<p>今年度初めて配置換えを行い、7年以上同一校に勤務している支援員を異動し、刷新を図った。入学当初の1年生や保健室への来室児童生徒へのきめ細かな対応が可能となり、学校の落ち着いた学習環境づくりにつながっている。</p>	①継続	年々、通常学級における特別支援を要する児童生徒も増加傾向にあり、学習支援員の必要性が高まっている。来年度、会計年度任用職員への移行があり、勤務形態を見直し、より有用性が増す配置ができるようにする。
			効果性	5			
			効率性 (コスト)	4			
			効率性 (人員)	5			
適応指導教室「サンルーム」 (学校教育課)	5 、 2 、 1	80%	事業の 妥当性	5	<p>12月現在で6名の入級となっている。週1回程度、チャレンジ登校を行ったり、学習や集団での遊びを行ったりする中で、社会的な自立を目指している。</p>	①継続	学校との連携を密にし、不登校児童・生徒宅への家庭訪問等、アウトリーチも積極的に行っていく。
			効果性	5			
			効率性 (コスト)	4			
			効率性 (人員)	4			
いじめ問題対策連絡協議会 (学校教育課)	5 、 2 、 1	60%	事業の 妥当性	5	<p>いじめ防止対策推進法の規定に基づき、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例を制定し、御前崎市いじめ問題対策連絡協議会が設置されている。</p> <p>警察・主任児童委員・小中学校生徒指導担当が委員を務め、いじめの防止等に必要事項を協議するとともに、連携調整を図っている。</p>	①継続	条例にも謳われているいじめ専門委員会の委員の選出、依頼、委嘱・任命を行い、必要があるときには委員会が開催できるように準備をする。
			効果性	4			
			効率性 (コスト)	3			
			効率性 (人員)	4			

5-2-3 安全で充実した教育環境の整備

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
安全安心な教育環境の向上 (教育総務課)	5 ┆ 2 ┆ 3	100%	事業の 妥当性	5	<p>市内全普通教室へのエアコンの設置を行い、快適で学びやすい教育環境の整備ができた。</p> <p>⑤転換</p> <p>特別教室のエアコン整備を計画的に行っていく。</p>
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	3	
老朽化する学校施設・設備の適正な維持管理 (教育総務課)	5 ┆ 2 ┆ 3	65%	事業の 妥当性	4	<p>対処的修繕から長寿命化計画に則した対応へ転換できるように、中学校の長寿命化計画基礎調査及び計画の策定を行った。</p> <p>①継続</p> <p>実施計画の策定を行い、計画的な改修を行う。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	
教育の情報化の推進 (教育総務課)	5 ┆ 2 ┆ 3	80%	事業の 妥当性	4	<p>データの一元管理や自動化による校務支援システムの更新・バージョンアップを進め、事務処理にかかる校務負担を軽減できた。教育ネットワークを活かした情報の有効活用、教材の共有化による充実した学習支援につながっているとまでは言えない。</p> <p>①継続</p> <p>教育ネットワークが構築され、機器を有効活用することで教材等の共有化を進める。</p>
			効果性	3	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	
【再掲】 普通教室でのICT教育の促進 (教育総務課)	5 ┆ 2 ┆ 3	80%	事業の 妥当性	5	<p>御前崎中学校に導入された児童・生徒用のタブレット端末とデジタル教科書を組み合わせたICT機器を活用した授業を促進するための機器の整備ができた。</p> <p>①継続</p> <p>今後も、求められるICT環境の整備に努める。それに伴う機器の選定については、ICT推進委員会で教職員の意見を聞き、実態に即した機器選定を行う。電子黒板の導入については、浜岡中学校導入後の状況等を考察し、展開していく。</p>
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	3	
			効率性 (人員)	3	

事業	項目	執行度	点 検 ・ ( 評 価 )		今後の方向
老朽化した情報機器の適切な更新 (教育総務課)	5 ・ 2 ・ 3	100%	事業の 妥当性	4	<p data-bbox="691 197 1088 613">教職員用パソコンの更新は、整備計画に基づき、安全で充実した教育環境の整備につながった。また指名競争入札の実施により、当初予算より大幅なコスト削減ができた。</p> <p data-bbox="1187 197 1441 613">適正な利用をするためには、定期的なサポートが必要となることから、保守点検の充実を、定期更新が必要となる。</p> <p data-bbox="1088 389 1187 421">①継続</p>
効果性	4	効率性 (コスト)	4		
効率性 (人員)	3				

#### IV 2019 年度教育委員会の活動

##### (1) 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員の名簿

(2020 年 3 月現在)

役職名	氏 名	任 期
委 員	吉 村 勝	2019年1月17日～2023年1月16日
委 員	本 目 武 彦	2016年1月17日～2020年1月16日
委 員	増 田 克 之	2020年1月17日～2024年1月16日
委 員	原 崎 志 保	2018年1月17日～2022年1月16日
委 員	下 村 勝	2017年1月17日～2021年1月16日
教育長	河 原 崎 全	2018年4月1日～2021年3月31日

##### (2) 協議事項

項 目	件数	内 容
(1) 教科用図書採択に関する事。	1	○令和2年度使用の中学校教科用図書採択について
(2) その他	3	○令和元年度準要保護児童生徒の認定について ○令和元年度御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の活動及び事務についての点検・評価について審議した。

## VI 総合評価

常葉大学 堀井啓幸

### はじめにー「スクラム御前崎」の評価と検証ー

平成 28 年度より浜岡中学校の建築委員会などに関わらせていただいております、一委員として教育委員会の運営が「市民目線」で行われていることを実感してきました。

特に、御前崎市の「スクラム型コミュニティ・スクール」は、すでにある学校と家庭、地域の連携の良さを生かそうとする「静岡型」コミュニティ・スクールの先陣を走っており、学校、家庭、地域をさらに結び付ける施策として様々な教育的成果をあげている。それは、教育長始め教育委員会、そして首長も含めて市民からの要望を大切にして行政施策を実施する姿勢と密接に関わっていると思われる。その点、多様な職務権限を持ち、多量、多様な教育事務を管理・執行する教育委員会において、御前崎市の場合は「スクラム御前崎」という機軸を基に、御前崎市の教育行政や学校教育が「スクラム」という視点でお互い共通理解がしやすい土壌を作っていることを評価したい。

ただ、「スクラム御前崎」も導入されて 5 年目になり、静岡県教育委員会から学校運営協議会における「合議の在り方」が全市町に対して問われていることも踏まえ、今回の教育委員会評価を通じて、「スクラム」の現状と課題を再点検することが求められる。ここでは、2020 年 2 月 18 日に行われた教育委員会に対する聞き取り及び自己点検・評価報告書等を参考に 2019 年度の御前崎市教育委員会の取組について「スクラム御前崎」の視点を中心に所見を述べる。

### 1. スクラムで推進する御前崎の教育

#### <施策 5-1-1>に関わって

「スクラム御前崎」の基盤を作っている学校運営協議会は、2019 年度も中学校区毎、年間 4 回にわたって数多くの委員（浜岡中学校区 29 名、御前崎中学校区 24 名）が集合し、各委員の積極的な意見交流の下で運営されている。学校運営協議会を中心にして「早寝早起き朝ごはん」「ゲーム障害・ネット依存」などについて学校、家庭、地域における共通理解が図られ、成果をあげている。静岡県下において、これだけの人数が定期的に集まる学校運営協議会は少なく、社会教育課との連携も当たり前に行われていることの教育的意義は大きい。学校、家庭、地域を代表する委員が、多様なまなざしで、みんな顔を突き合わせて、おらが地域、おらが学校、おらが子どもたちのことを考えるところに信頼関係が生まれ、御前崎の教育の良さ（強み）を醸成していると思われる。ただ、これだけの人数を集めて、「市民における認知度はあまり高くない」とすれば、今後、委員の世代交代の問題も含めて、学校運営協議会の在り方について再検討していくことも求められる。「スクラム御前崎」の下に多様な施策が実施されているが、学校運営協議会の在り方の再検討とともに、学校支援地域本部におけるコーディネーター養成やボランティアや学校の加重負担にならない「スクラムカレンダー」の作成など持続可能な取組としてさらに充実させていただきたい。

総合教育会議・移動教育委員会の実施について、「効果性」は 5 段階の 3 の評価となっている。この項目は「重点取組」にも組み込まれており、その「執行度」も他の項目と比べると高くはない。首長、教育長が「市民目線」で関わっている現状を考えれば問題はないが、



今年度1回開催された移動教育委員会のテーマである「教員の負担軽減」の問題や予算に関わる施策については総合教育会議や移動教育委員会のさらなる充実を図り、意見を効果的に集約することも求められる。防災教育の推進についても、昨年度の評価同様に「執行度」は必ずしも高くはないが、この項目も「重点目標」に組み込まれており、今後どのように展開していくか創意工夫した取組が求められる。例えば、大阪府松原市では、市内すべての小中学校をインターナショナルセーフスクール認証校として教職員だけでなく子ども達に安全・安心に対する意識化を図っており、市内全体でセーフコミュニティをつくろうとしている。「スクラム御前崎」の着実な実践を生かした防災教育のさらなる充実を期待したい。

#### ＜施策5-1-2＞に関わって

「スクラム御前崎」のもと「地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進」についても、市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催、サポート隊、こども110番の家、声かけ運動、青少年補導員活動、情報モラル学習の推進、「青少年の未来をつむぐ集い」の開催、成人式の開催、小・中連携体験事業、灯台村塾、親子工作教室、家庭教育支援員の配置、家庭教育学級の支援、家庭教育の推進など多様な施策が実施されている。

このうち、情報モラル学習の推進については、「重点取組」に組み込まれている情報教育の推進と密接に関わっており、「ギガスクール」構想（小中学生に一人一台パソコンやタブレット端末を配置する政府の構想）に関わって、御前崎市は1億5000万円の経費を計上している。「ギガスクール」の視点は、学校教育領域のタスクとしてだけでなく、ネット犯罪や「ネット依存の対応」、「ゲーム障害」など青少年指導のタスクとしても学社連携しての取組を進めていくことも大切である。その点、「スクラム御前崎」の内実に関わる教育委員会における各担当課のさらなるスクラムの在り方が問われている。

家庭教育支援については、「家庭教育の充実」として「重点取組」にも組み込まれており、家庭教育支援員の配置やスタートアップカリキュラム冊子の作成や指導など積極的に取り組まれている。児童虐待件数の急増だけでなく、少子高齢化がこれまで以上に社会問題化するであろう令和の時代は「家族や親の存在意義が根底から問われる時代」と言ってもよい。改めて、教育基本法の第13条「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」という規定にかかわって、家庭教育支援の在り方が新たに問われる必要がある。家族形態や家族問題が多様に変化し、家族を「ライフサイクル」ではなく「ライフスパイラル」としてとらえざるを得ない今日的状況の下で、家族形態の多様性とともにある「子どもの育ち」の多様性をどのようにみて、どのように支援していくか。「子どもの育ち」の多様性を認知した上で家庭教育支援の在り方が検討されなければならない。その点、就学前からの支援や指導の重要性に鑑みて、指導主事が作成された「アプローチ・スタートアップブック」をどのように活用していくか。点ではなく、線、面として生かすためには小学校に幼保小連携を担当する教員の配置をするなどの施策も考えられる。

「遊び込む子」をどう小学校に活かしていくのか、施策5-2-1（スクラム・スクール・プラン）との関わりにおいて、ボトムアップ型連携のさらなる充実を期待したい。

## 2. スクラム・スクール・プランで推進する子どもの育成

＜施策5-2-1、5-2-2、5-2-3、5-2-4＞に関わって

平成31年度の全国学力・学習状況調査に加えて、市独自の学力調査の実施し、また、スクラム研究会、スクラムゼミナールなど多様な研修会にそれぞれの分野の最前線の実践研究を行っている著名な専門家を招いて質の高い研修を行っている。また、子ども達の学習の充実のために、ALT及び英語活動指導員の配置、ICT支援員の配置、しおかぜ先生、学習支援員、にこやか相談などの人的配置もきちんとなされており、きめ細やかな配慮の行き届いた施策が実施されている。とりわけ、御前崎市の特色を生かす施策として、灯台村塾や、エネルギー教育の充実、読書活動の充実発展のための学校図書館司書（3人）の配置を評価したい。それらの施策の成果は、平成31年度の全国学力・学習状況調査結果に反映している。今後の課題として、平成31年度の全国学力・学習状況調査結果に加え、「市独自の学力調査」結果も踏まえて、どこを課題として今後どのように改善していくかを総合的な戦略として明確にし、幼保小中高という学校段階、そして、大学への進学や社会に出ていく御前崎市の子ども達の育成にどう結び付けていくのか長期、中期、短期的な施策として具現化していくことが求められる。

他市町同様に幼稚園、保育所、認定こども園職員の確保に苦心されているが、「重点取組」における「乳幼児教育の長期計画の検討」とも関わって、「スクラム御前崎」の強みを生かした人材発掘や「幼保小連携」を活発にすることによる御前崎市の教育基盤としての幼児教育の充実を図りたい。

ハード面の教育環境整備については、浜岡中学校の改築工事が始まり、2021年3月に完成することになった。御前崎市の教育の強みを具現化する学校建築として期待したい。また、給食費未納者の解消に関わって2020年度から給食費は市が負担することになり、御前崎市の教育の魅力としてアピールしたい。

## 3. 誰でもいつでもどこでも学べる生涯学習の推進

5-3-1、5-3-2、5-3-3及び5-6-1（生涯を通じたからだづくり）に関わって

「スクラム御前崎」のもと、市文化祭の開催、伝統文化親子教室、小学生海洋体験活動、御前崎市振興公社との連携での絵画教室、人形劇など学社連携の事業だけでなく、市民のための様々な生涯学習（スポーツ）支援の施策が行われており、市民の評価も高い。また、地域の文化財継承のために、アカウミガメの保護活動、地区文化財の継承、文化・芸術活動の推進も積極的に行われている。特に、「市民とともに考えとともに歩む図書館づくり＜施策5-3-3＞」に関わって、市立図書館事業のさらなる充実とともに、市立図書館と学校図書館、学校図書館司書と司書教諭の連携をさらに密にすることで、学校教育における読書活動の推進と連動した市民に身近な図書館づくりがさらに進むことが期待される。こうした読書活動の推進が「スクラム御前崎」の内実の充実につながろう。2020年度より公民館が地区センター化（所管が首長部局となる）されても、これまでの各地区の生涯学習（社会教育）の拠点としての公民館の役割の重要性を踏まえて、地区公民館の独自性とともに「スクラム御前崎」のネットワークを生かした生涯学習基盤の充実につなげたい。

#### おわりにー自己点検・評価報告書の書式の変更についてー

従来の大項目ごとの評価の視点でいえば、2019年度においても御前崎市教育委員会は、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」及び「2019年度スクラム御前崎ー郷土を愛し未来を創る人づくりー」に体系的に示された教育施策を踏まえて、着実に管理・執行していると総括されよう。

ちなみに、これまでの報告書では、1教育委員会の活動、2教育委員会が管理・執行する事務、3教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務と、3つの大項目に区分して評価を行ってきた。特に、1においては、点検事項として教育委員会会議の開催回数、運営、広報・公聴、研修会などの小項目を設けて、点検・評価がなされてきており、検証としてわかりやすい部分もあった。

今回の報告書では、「重点取組」と「御前崎市教育委員会自己点検及び評価」に大別し、「執行度」という大きな評価項目と、「事業の妥当性」「効果性」「効率性（コスト）」「効率性（人員）」そして、「今後の方向」（継続、拡大、中止、転換）としてまとめた形になっている。これまでのマトリックス型の評価様式をわかりやすく改善した側面もあるが、言葉として、また、実態としてわかりにくい点もある。例えば、「執行度」と「達成度」との違いや「効果性」「効率性（コスト）」「効率性（人員）」における評価はどんな視点が評価の決め手になっているのかなど、報告書としてもう少し市民に分かりやすい説明や事業報告が求められるのではないかと思われた。